

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|--------------------------|
| A-152 | 24-026 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Patterns of comorbid PTSD, depression, alcohol use disorder, and insomnia symptoms in firefighters: A latent profile analysis 消防士における PTSD、うつ病、飲酒障害、不眠症の併存パターン：潜在プロファイル分析 | | |
| 執筆者 | | |
| Kim JI, Min B, Lee JH, Park H, Kim JH. | | |
| 掲載誌 | | |
| J Affect Disord. 2024 Jul 1;356:338-345. doi: 10.1016/j.jad.2024.03.159. | | |
| キーワード | | PMID |
| 消防士、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、併存疾患、潜在的プロファイル分析、メンタルヘルス | | 38583597 |
| 要旨 | | |
| 目的： 消防士は、職務中に様々な外傷経験にさらされるため、PTSD（心的外傷後ストレス障害）、うつ病、飲酒障害（AUD）、不眠症などの精神疾患のリスクが高い。本研究の目的は、韓国の全国的な消防士集団において、PTSD、うつ病、AUD、不眠症の併存パターンを特定し、怒りの反応、レジリエンス、および外傷経験の数がクラスメンバースhipに与える影響を調査することである。 | | |
| 方法： 韓国全国の消防士 54,054 人を対象にオンライン調査を実施し、PTSD、うつ病、AUD、不眠症の症状スコアに基づき潜在プロファイル分析（LPA）を行った。分散分析（ANOVA）にて特定されたクラスの特徴を比較し、多項ロジスティック回帰を用いて怒りの反応、レジリエンス、および外傷経験の数がクラスメンバースhipを予測するかどうかを調査した。 | | |
| 結果： LPA により、4つのサブグループが特定された：最小限の症状（79.5%、AUD 平均スコア 5.1）、主に PTSD（5.3%、同 8.2）、閾値未満の症状と併存（13.0%、同 8.7）、および高い症状と併存（2.3%、同 12.7）であった。外傷経験の数は主に PTSD を予測し、レジリエンスと怒りの反応は併存症の重症度を予測した。 | | |
| 結論： 本研究の結果は、消防士における PTSD、うつ病、AUD、不眠症の重症度が相関し、併存する傾向があることを示している。これらの結果は、消防士の併存症状を評価する必要性と、複数の併存疾患を持つ場合に怒りの反応を減少させ、レジリエンスを強化する必要性を強調している。 | | |